

パネル据付説明書

PJB012D300



ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【△警告】**、**【△注意】**に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性大きいものを特に**【△警告】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【△注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。**【○】** 絶対に行わない **【!】** 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

△警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。

ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。

【!】
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。

据付けに不備があると、ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。

【!】
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。

当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。

【!】
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。

電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。

【!】
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。

接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。

【!】
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。

カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。

【!】
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。

ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

【!】
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。

修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

【○】
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。

点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。

【!】
- パネルやガードを外した状態で運転しない。

機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。

【○】
- 元電源を切った後に電気工事を行う。

感電、故障や動作不良の原因になります。

【!】

お願い <自動昇降パネル>

- ・サービスパネルの動作範囲の周辺および下方には、障害物を置かないでください。
- ・電源投入前にパネルを取り付けた場合は、サービスパネルの昇降動作はできません。
- ・電源投入前にサービスパネルを収納する場合は、付属のサポートで仮固定する事ができます。
- ・電源投入後は、付属のサポートが外してあることを確認してから昇降動作を行ってください。
- ・サービスパネル取付け後の初回は、リモコンで「上げる」の操作を行い、サービスパネルを正規位置に収納してください。（マイコンが収納位置を記憶します。）
- ・ワイヤは、折り曲げ、ねじり、噛み込み等により傷ついたり、たばこ等の火が触れないようにしてください。

① 据付のまえに

- ・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
- ・右図の付属品を確認してください。

付属品

ボルト		6本	パネル取付用
サポート		4本	サービスパネル仮止め用 (自動昇降パネルのみ)

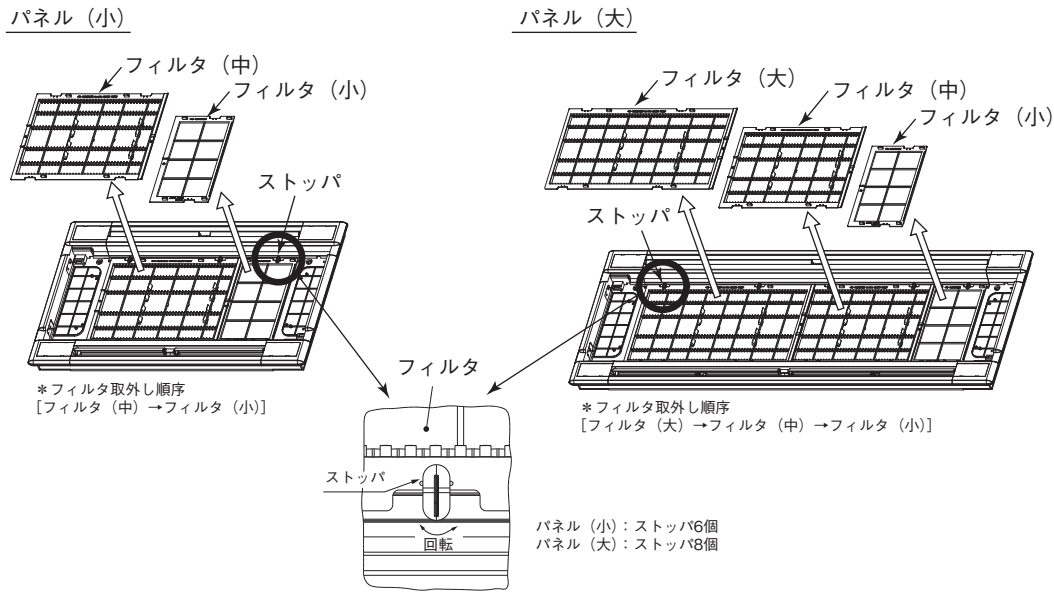
➡

➡

④ フィルタの取外し

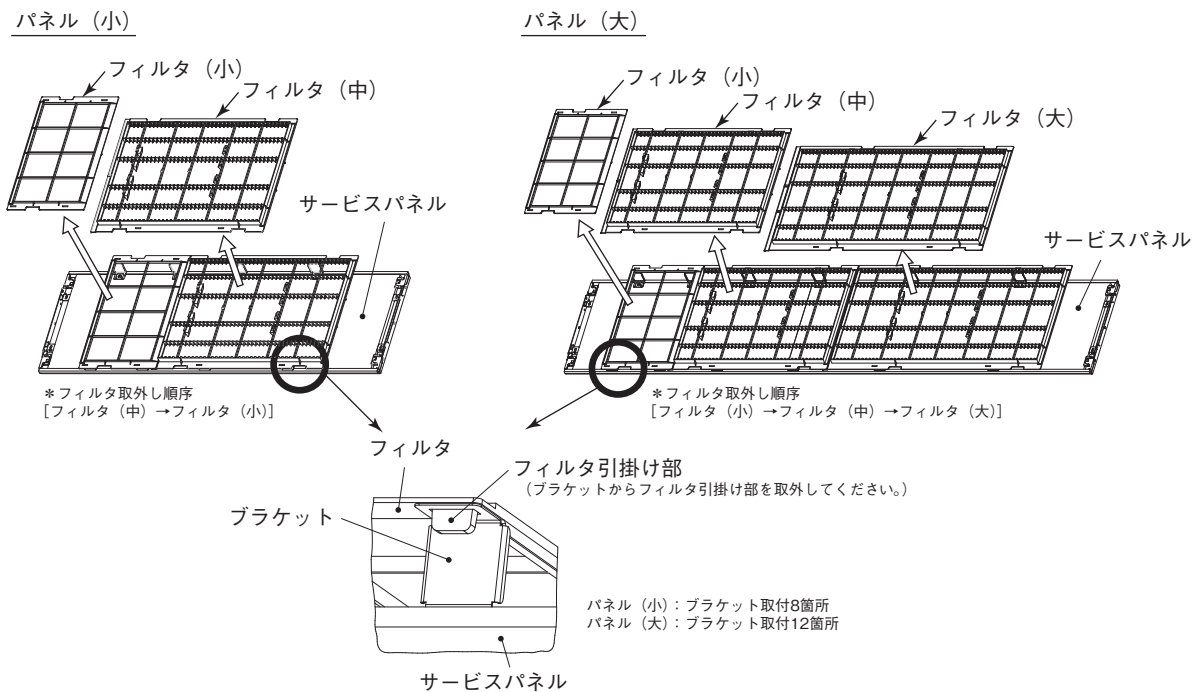
<標準パネルの場合>

- ・フィルタを押さえ、ストッパを回転させてフィルタを取外してください。



<自動昇降パネルの場合>

- ・フィルタをブラケットから取外してください。

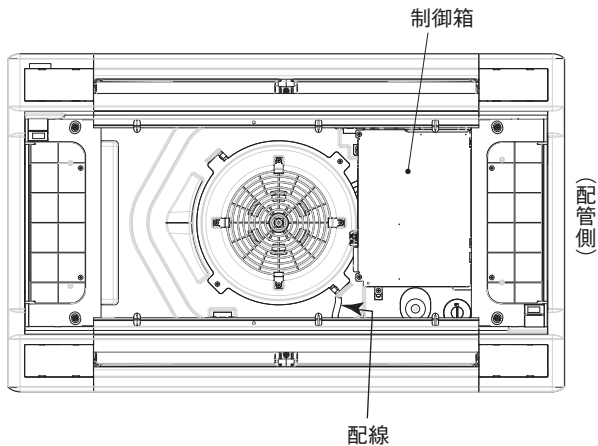


⑤ パネルの取付方向

1. パネルの取付方向はユニット本体に対し方向性があります。
 - ・パネルは、右図の様に電気配線が制御箱に近くなる方向で取付けてください。

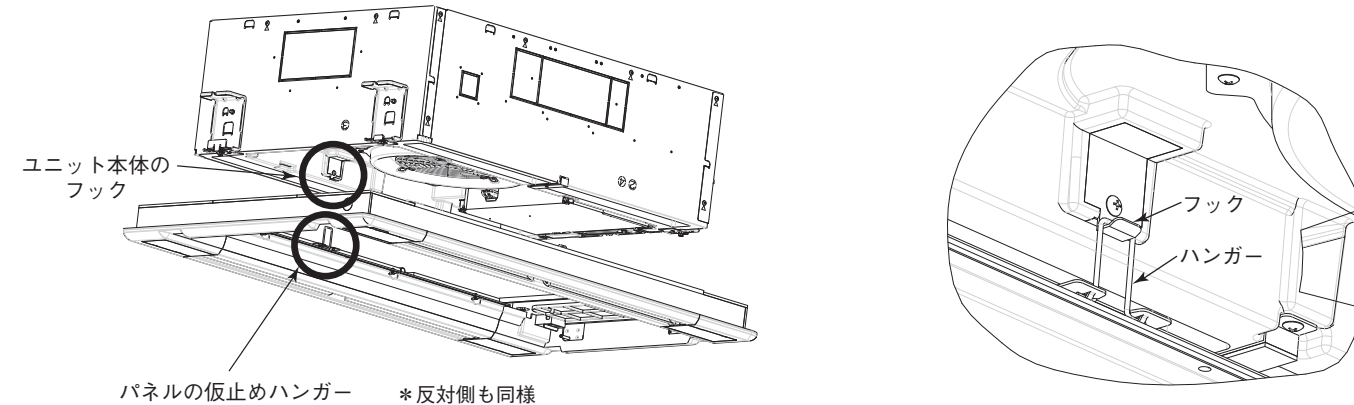
ご注意

- ・右図以外の方向で取付けると、エアフィルタと制御箱が干渉し風漏れの原因となります。また電気配線の接続ができません。

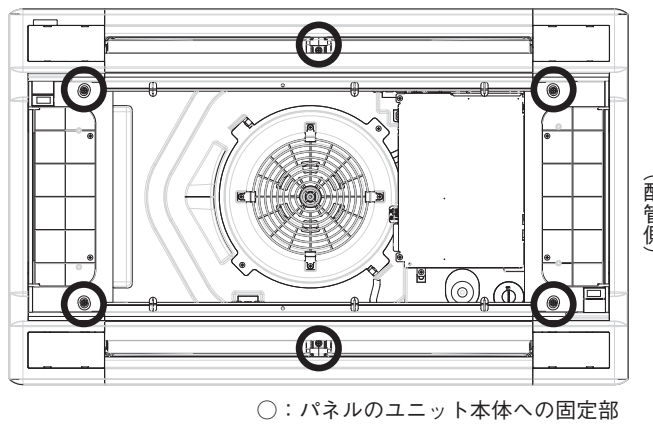


⑥ パネルの取付

1. パネルの仮止め
 - ・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。（2箇所）
 - ・パネルの仮止め用ハンガーをユニット本体のフックにかけて、パネルを本体に吊るします。

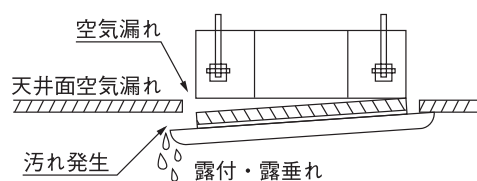


2. パネルのユニット本体への固定
 - ・パネル付属のボルト6本を用いて、ユニット本体に締め付けてください。

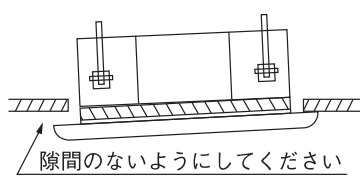


ご注意

- ・吊りボルトの締め込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締め込んでください。



- ・吊りボルトを締め込んでも天井面と化粧パネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニット本体の高さを再調整してください。

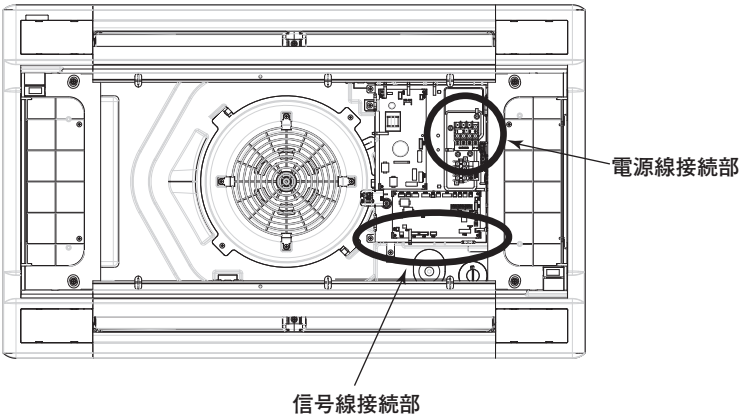
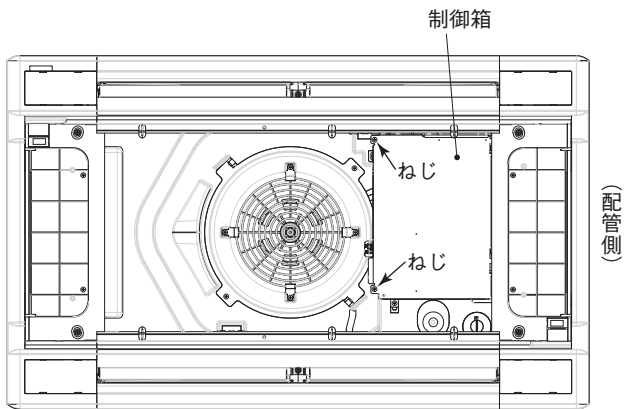


➡

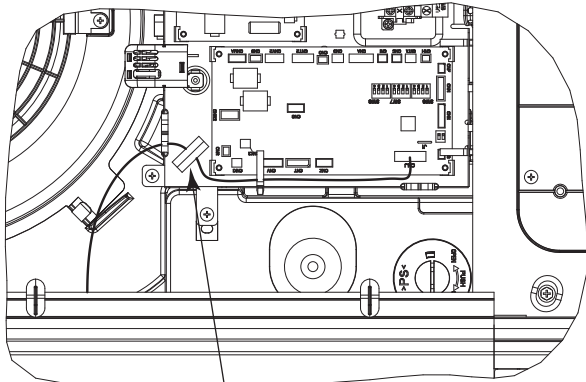
裏面へつづく ➡

⑦ 電気配線

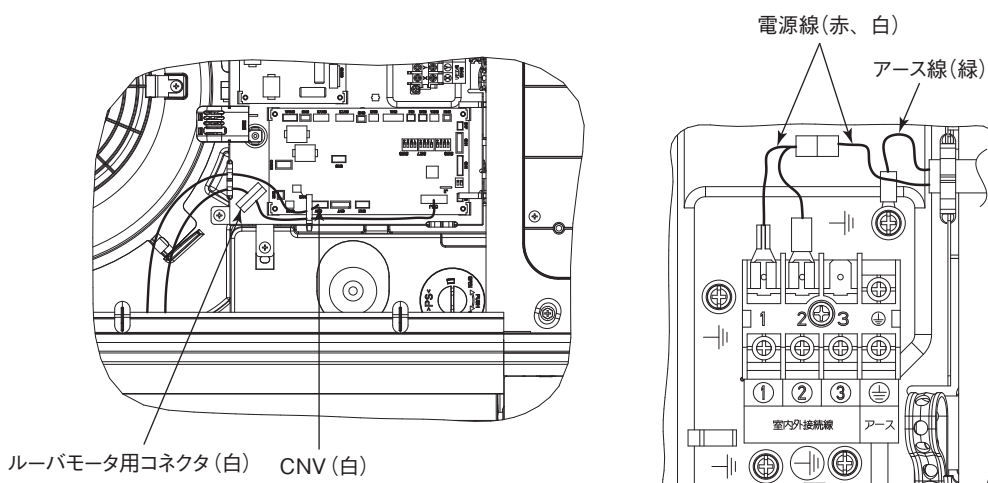
1. ねじ(2本)を外して、ユニット本体の制御箱の蓋を取外してください。
2. ルーバモータ用コネクタ(白 20P)を接続してください。
・コネクタは、制御箱内に入れてください。
3. 自動昇降パネルの場合
 - ①電源線(赤・白)をユニット本体の電源端子台1番,2番に挿入してください。アース線(緑)を⑤に接続してください。
 - ②信号線をユニット本体の基板のコネクタCNV(白)に挿入してください。
4. 制御箱の蓋を取付けてください。



標準パネルの場合

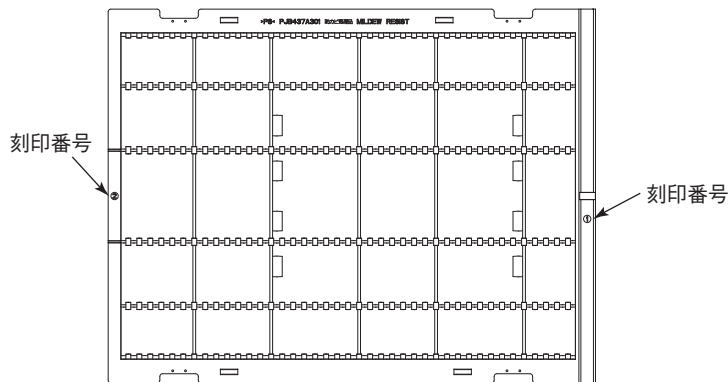


自動昇降パネルの場合



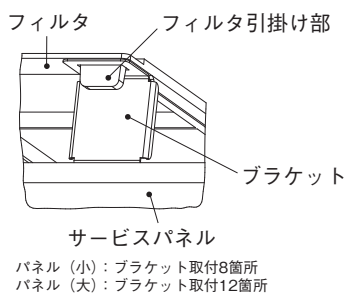
⑧ フィルタの取付

1. フィルタの取付方向には方向性があります。
2. フィルタの取付方法は⑨フィルタの取外しの手順を逆に作業してください。
3. 各フィルタの取付は、フィルタに刻印された番号を合わせ取付けてください。



ご注意

自動昇降パネルの場合、フィルタ引掛け部は確実にブラケットへ差し込んでください。



⑨ サービスパネルの取付

＜標準パネルの場合＞

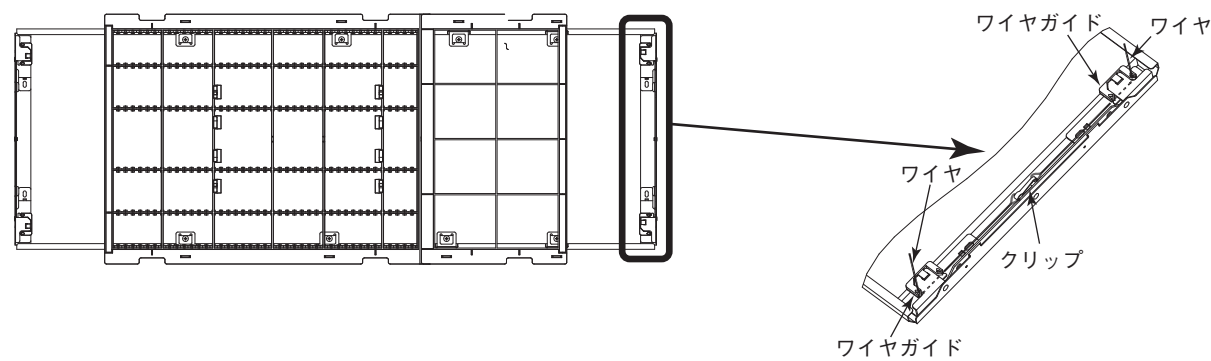
1. パネルとサービスパネルの取付方向には方向性ありません。
2. サービスパネルの取付方法は⑩サービスパネルの取外しの手順を逆に作業してください。

＜自動昇降パネルの場合＞

1. サービスパネルの取付方向はパネル本体に対し方向性があります。
2. ワイヤをワイヤガイドに通し、クリップが中央に来るよう取付けてください。
3. ワイヤ装着後、ワイヤの曲がり・ねじり・噛み込みがないことを確認してください。

ご注意

ワイヤガイドは確実に装着してください。確実に装着されていないと、グリルの自動昇降できなくなったり、グリルが落下する恐れがあります。

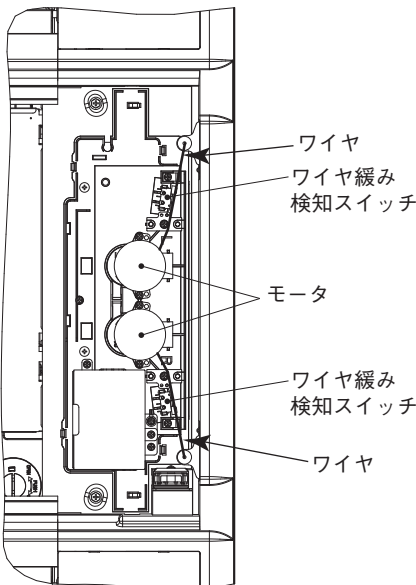


⑩ 自動昇降パネルの設定

ワイヤードリモコン又は、ワイヤレスリモコンを使用することで、サービスパネルの下降長さ設定をすることができます。下降長さ設定する場合は、リモコン据付説明書を参照し、電源周波数設定及び下降長さ設定を行ってください。

ご注意

＜ワイヤ緩み検知機構について＞
自動昇降パネルには、ワイヤの絡まり防止のため、「ワイヤ緩み検知機構」を装備しています。サービスパネルを吊ったワイヤが緩んだ場合、ワイヤ緩み検知スイッチが働き、自動昇降用モータが自動停止します。パネル据付後、サービスパネルが動かない場合、「ワイヤ緩み検知機構」が作動している可能性がありますので、据付時にワイヤの噛み込み、絡まり等が無いのか、ワイヤ経路をご確認ください。



⑪ 電源投入前のサービスパネルの仮固定 ＜自動昇降パネルのみ＞

電源投入前は、サービスパネルの自動昇降はできません。

1. 電源投入前にサービスパネルを収納したい場合は、付属のサポートでサービスパネルを仮止めすることができます。
2. パネルの4コーナーに付属のサポートを図のように取付けてください。(4箇所とも)
3. ワイヤを折り曲げたり、かみ込んだりしないように注意しながら、持ち上げパネルに収納してください。

ご注意

- ・仮固定の状態では昇降動作を行わないでください。
- ・サポートを装着したまま昇降動作を行うと、サービスパネル昇降装置の故障の原因になります。
- ・仮固定の状態では運転しないでください。
内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。

